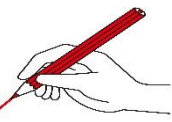


Move Mountains

5年生通信

6月4日34号



○アナログあなどるなかれ

①発達の原理原則は変わらない

いくら技術が発達しようと、赤ちゃんがお腹から出てきて立ち上がるなんてことはないわけです。首がすわり、上体を起こすことで上半身を発達させ、ハイハイをして筋力をつけ、つかまり立ちをしてようやく立ち上がるのです。これは、変わりません。変わりようがありません。

②つまり、指先を使うことの重要性も変わらない

指先は「第二の脳」と言われるほど、脳と密接に結びついています。指先を動かすこと＝脳を動かすことといえるほどの結びつきです。ですから、幼児教育の場面で手遊びが重視されているのです。決して、「手はおひざ～」で終わり、姿勢を正させることが目的ではありません。

手遊びのよさは、手だけでなく、目もつかうことにあります。文字を書くにも、絵を描くにも、はさみを使うにも、指先の動きと見えているものが連動していないととても難しい行為になります。（視力が高い＝見えているわけではないということについてはまた書きたいと思います。）

ICT 機器では、明らかに指先の動きが少ないです。特にタッチでは、力が込められません。多くの小学校では、「鉛筆を使います」と指導します。これも、指先に力を込めて書く、ということが非常に重要だからです。ただいたずらに制限を加えているわけではありません。

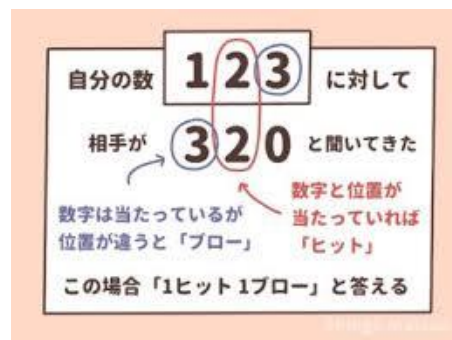
③では何がいいのか

- ・学校でまず紹介したのはアナログゲームです。
最後に消した人が負けの『某消しゲーム』

画像 (<https://45mix.net/>)

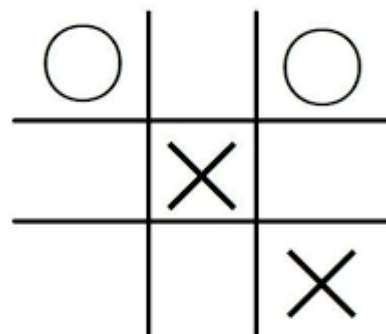


相手の考えた数字を当てる「ブロー&ヒット」



画像 (<https://45mix.net/>)

そしてシンプルな「○×ゲーム」



その他にも幼稚園や低学年での「遊び」は脳の発達を促進する宝庫です。

・折り紙

平面の紙を立体にするというのは、想像力を使いながら指先を駆使します。そして、立体を想像できるかどうかは、算数・数学の「図形」分野で役に立ちます。

・粘土

こちらも、立体的に物事を捉える練習になります。独特の触覚も情操教育に役立ちます。何度も作り直すには油粘土がいいのですが、手が汚れるのが玉に瑕ですね。

・塗り絵

枠からはみ出さない丁寧な塗り絵は、指先を目で追う力を養います。指先の感覚と目で捉える力は、多くの場面で役に立ちます。また「丁寧さ」「粘り強さ」など、非認知能力も身に付けられます。

と、いわゆるアナログな昔遊びは、脳にいいことだらけなのです。あやとりもいいです。お手玉もいいです。さらに、これらの遊びの多くは、自分で作る要素が大きいこともポイ

ントです。ゲームは、誰かがプログラミングした世界に過ぎません。操っているようで操られていることも少なくありません。

上記のような遊びは「子どもの遊びポータルサイト」 (<https://45mix.net/>) など、一覧になっているサイトがたくさんあります。

先日、急きょ20分ほど時間ができたので上記のゲームを紹介しました。「紙と鉛筆があれば十分に遊べるよ」と声をかけて、時間をとりました。

熱中して遊んでいる姿がありました。遊びながらコミュニケーションをとり、知らぬ間に論理的思考力も鍛えられています。

たまには、デジタルデトックスいかがでしょうか。

ご意見お待ちしております♪

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

